大型車をご使用の皆様へ

ホイールボルト折損による車輪脱落事故防止のための、お客様ご自身による点検実施のお願い

車輪が脱落するまでには予兆があります。
異常を発見したら確実に整備を行ってください。

車輪の脱落が発生しています。

国土交通省発表のホイールボルト緊急点検実施結果によると、大型トラックの約2%に何らかの異常が見つかっています。

車輪の脱落は、路上故障や他の交通の妨げになるばかりではなく、場合によっては重大な事故を引き起こし、人の命にかかわることもあります。

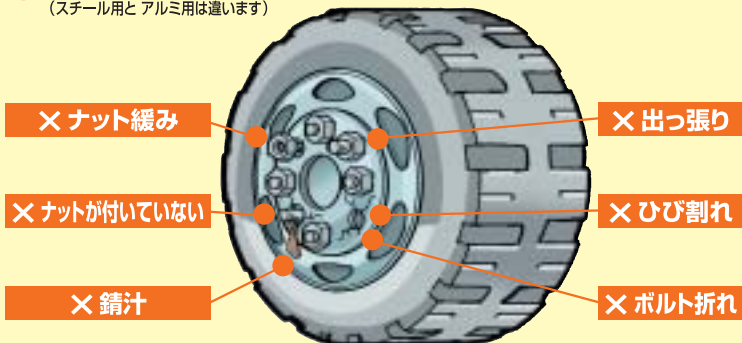
日常の点検整備や定期点検をしっかり行うことによって、未然に防止するようにお願いします。

ホイールボルト折損による車輪脱落事故防止のため、日常の点検整備時などに、お客様ご自身によるタイヤまわりの点検をお願いしています。

点検の結果、折損などの異常を発見した場合には、販売会社または整備事業者に依頼するなど、確実に整備をするようお願いします。

日常の点検方法

1 目視点検

1. ホイールボルトおよびナットが**すべて付いている**かを点検する。
2. ディスクホイールやホイールボルトまたはナットから**錆汁が出た痕跡**がないかを点検する。
3. ホイールナットからのホイールボルトの**出っ張り量**を点検する。
   1.一輪の中で不揃いはないか
   2.車輪によって出っ張り量が異なっていないか
4. ホイールボルトおよびナットの**誤使用**がないかを点検する。
   （スチール用と アルミ用は違います）

2 点検ハンマや小型ハンマを使用しての点検

ホイールナットの下側に指をそえて点検ハンマや小型ハンマでホイールナットの上側面を叩いた時、**指に伝わる振動が他のナットと違ったり、濁った音がしないか**異常の有無を点検する。
異常があった場合は、ナットの緩みやボルトが折損しているおそれがあります。

タイヤ交換等ホイールを取外して行う整備時の注意事項

- タイヤのローテーションやパンク修理などで、ディスクホイールを取外した際には、ホイールボルトやホイールナット、ディスクホイールなどの関係部品に異常がないか点検するようにしてください。
- 左車輪に異常があった場合は、右車輪も入念に点検を行うなど、異常が発見された際には、その他の車輪の点検も確実に行ってください。
- ホイールの取付けに当たっては、ディスクホイール、ハブ、ホイールボルトを清掃し、ホイールボルト、ナットのネジ部、座面部（球面座）にエンジンオイルなどの潤滑剤を塗布して、規定の締付トルクで締付けてください。また、ホイール取付け後50～100km走行を目安に、増し締めを実施してください。

整備の方法について

詳しい点検や整備の方法については、（社）日本自動車工業会 ホームページ「くるまとユーザー」（※）をご覧になるか、各メーカーの整備マニュアルや取扱説明書に記載の手順で行ってください。

（※）http://www.jama.or.jp/user/fall_off_wheel/index.html

JAMA 社団法人 日本自動車工業会
Japan Automobile Manufacturers Association, Inc.
http://www.jama.or.jp/

アルミホイール、スチールホイールの履き替え時の誤組防止について

●スチールホイール、アルミホイールは、それぞれ専用のホイールボルト、ナットが必要となります。アルミホイールからスチールホイールに、またはスチールホイールからアルミホイールに履き替える場合は、専用のホイールナットやホイールボルトに交換してください。

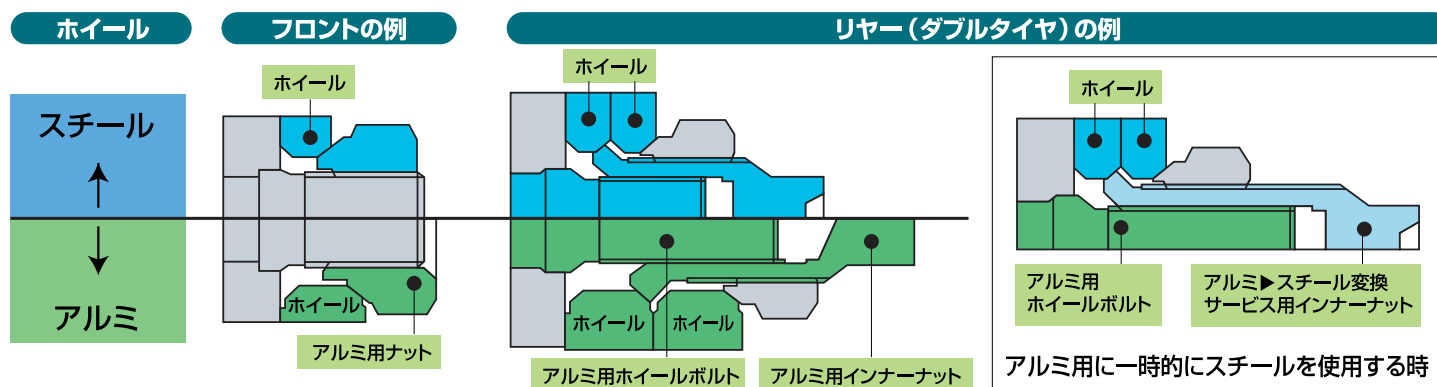
●それぞれ、ホイールボルトやナットを混用すると、長さや形状が異なるため、ネジの底づきや噛み合い不足によって、締付力が十分得られず、ホイールボルトの折損やディスクホイール破損の原因となります。
※スチールホイール、アルミホイールの混用は行わないでください。

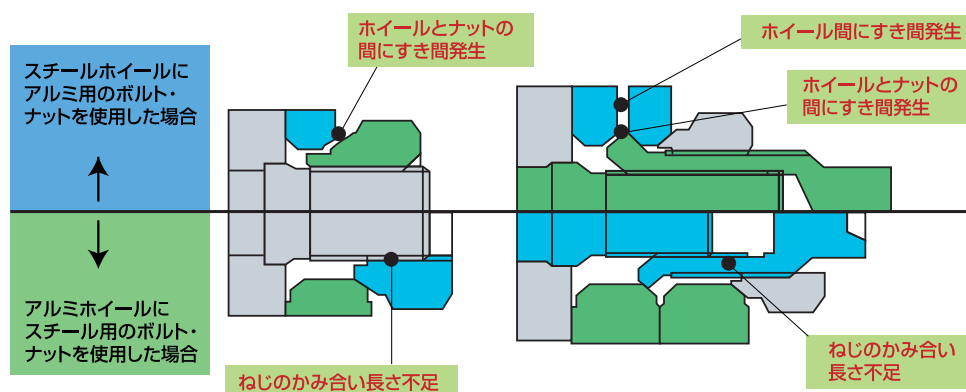
アルミホイール、スチールホイールへの変更内容

ホイール	スチールからアルミに履き替え	アルミからスチールに履き替え	アルミ用に一時的にスチールを使用する時（注1）
フロント	アルミ用のナットに交換（注2）	スチール用のナットに交換（注2）	スチール用のナットに交換
リヤー（ダブルタイヤ）	ホイールボルト、インナーナットをアルミ用に交換	ホイールボルト、インナーナットをスチール用に交換	アルミ用ホイールボルトを使用してスチールを履く場合のサービス用インナーナットに交換（注3）

（注1）アルミホイールを履いた車両で、冬期間スチールホイールのスタッドレスタイヤを使用するような場合です。
（注2）日野車は、ナットに加え、それぞれ専用のホイールボルトに交換します。（いすゞ、日産ディーゼル、三菱ふそう車は交換不要です）
（注3）再度、アルミホイールを履く場合には、アルミ用のインナーナットへの交換が必要です。

ホイールボルトとナットの使用例

《正しい組み合わせ》

《誤った組み合わせ》

■誤った使い方をすると、締付け力が十分得られず、ホイールボルトの折損や ディスクホイール破損の原因となります。

アルミホイールを履いた車両でアルミ用ホイールボルトのまま冬季間スチールホイールのスタッドレスタイヤを使用するような場合は、必ずアルミ▶スチール変換サービス用インナーナットを使用してください。

参考:ホイールボルト・ナットへのアルミ用、スチール用識別表示

→今後、このマークを表示します。

R:右ねじ　L:左ねじ　ST:スチールホイール用　AL:アルミホイール用　S・A:スチール/アルミホイール共用
○:アルミ▶スチール変換サービス用インナーナット

スチール用 右ねじの例

アルミ用 左ねじの例

アルミ/スチール共用 右ねじの例

アルミ▶スチール 変換サービス用インナーナット 右ねじの例